

## I 概要

### 【内政】

- 6日 FARCとの和平交渉における2点目の課題の基本合意
- 12日 国防省がFARCによるウリベ前大統領暗殺計画を公表
- 20日 サントス大統領の再選出馬表明

### 【外交】

- 1日 ロシア爆撃機の領空通過未遂
- 4日 オルギン外相のオーストリア訪問
- 5～6日 オルギン外相のドイツ訪問
- 10～11日 オルギン外相のポルトガル訪問
- 22日 ウィレム・オランダ国王及びマキシマ王妃の当国訪問
- 23日 パティニーニョ・エクアドル外相の当国訪問
- 25日 コレア・エクアドル大統領の当国訪問
- 27日 ルス・ステラ・ハラ駐ニカラグア大使の本国召還
- 27日 第20回太平洋同盟高級実務者会合（於：チリ）

## II 本文

### 【内政】

#### 1 FARCとの和平交渉における2点目の課題の基本合意

6日、政府とFARCはFARCの政治参加につき基本合意した。和平交渉の保証人であるノルウェー政府とキューバ政府の代表により読み上げられた政府とFARCの共同声明においては、反対勢力の権利行使拡大・保証（反対勢力のための基本法の制定）、多元主義、（社会的）統合、現在の選挙システムの改訂、新党及び新たな政治運動の出現、マスコミへのアクセス、及び女性参加につき言及された。

同合意の中には、武装紛争による被害が最も大きかった県につき、下院の過渡的議席を、特にFARCに対して与えることが含まれている。交渉は新たな段階に入り、麻薬取引や違法作物についても協議される予定となった。

#### 2 FARCによるウリベ前大統領暗殺計画

12日、国防省は、FARCによるウリベ前大統領及びモンテアレグレ検事総長の暗殺計画を公表した。FARC側は当該情報は虚偽であるとして反論した。

#### 3 サントス大統領の再選出馬表明

20日、サントス大統領は再選出馬表明演説を行った。同演説においてサントス大統領は、多数の課題をやり終えるために働き続けなければならない旨述べるとともに、和平交渉への支持を訴えた。なお、サントス大統領の再選表明時点でサントス大統領の再選を支持している政党は、国民統一党、自由党、急進改革党であった。

## 【外交】

### 1 ロシア爆撃機の領空通過未遂

1日、ロシア軍の超音速爆撃機2機がベネズエラからニカラグアに向けコロンビアの領空を通過しようとしたが、コロンビア空軍により阻止され、ベネズエラに帰還した。この件に関し、コロンビア政府は、ロシアに対して抗議の書簡を送付した。ロシア外務省は15日に、ニカラグアへの軍事支援について否定したが、爆撃機の領空通過未遂の件については言及しなかった。

### 2 オルギン外相のオーストリア訪問

4日、オルギン外相はオーストリアを公式訪問し、貿易関係の促進につき協議した。

### 3 オルギン外相のドイツ訪問

5～6日、オルギン外相は、ドイツを公式訪問し、ヴェスターヴェレ外相と会談した。ヴェスターヴェレ外相は、ドイツの太平洋同盟へのオブザーバー国としての加盟につき謝意を表した。「太平洋同盟の柱」(Los Pilares de la Alianza)セミナーが開催され、モレノ・チリ外相、及びグヤハルド・メキシコ経済相らも参加し、オルギン外相は、ドイツの企業家達に対し、太平洋同盟の基軸につき説明した。

### 4 オルギン外相のポルトガル訪問

10～11日、オルギン外相はポルトガルを公式訪問し、ポルタス・ポルトガル外相と会談し、在エチオピア・ポルトガル大使館内にコロンビア外交官を駐在させる等の両国の一部在外公館の部分的共有についての覚書に署名した。

### 5 ウィレム・オランダ国王及びマキシマ王妃の当国訪問

22日、ウィレム・オランダ国王、マキシマ王妃及びティーマー・マンス外相が当国を訪問し、大統領府においてサントス大統領夫妻、オルギン外相及びその他閣僚と会談した。サントス大統領は、FARCとの和平交渉の進展につき説明し、ウィレム国王は、紛争後に必要な支援の用意がある旨述べた。

### 6 パティーニョ・エクアドル外相の当国訪問

23日、パティーニョ・エクアドル外相が当国を訪問し、オルギン外相と会談した。両外相は、25日に予定の両国首脳会談の詳細につき協議した。会談後、両外相は、在コロンビア・エクアドル大使館の新事務所の開所式に出席した。

#### 7 コレア・エクアドル大統領の当国訪問

25日、コレア・エクアドル大統領は当国を訪問し、エクアドル国境付近のイピアレスにおいてサントス大統領と首脳会談を行った（両国外相同席）。両大統領は、両国共同プロジェクトの進捗等につき協議した。

#### 8 ルス・ステラ・ハラ駐ニカラグア大使の本国召還

26日、ニカラグアは、コロンビアの武力の脅威により、ニカラグアのカリブ海における主権が侵害されているとして、コロンビアのニカラグア海域通過停止を要求するとともに、コロンビアによる国際義務侵害を宣言し、本件につき判決を下すよう、ICJに対し要請した。

これに対し、オルギン外相は、27日、本件につき協議するため、ルス・ステラ・ハラ駐ニカラグア大使を本国に呼び戻すこと及び、ニカラグアの新たな要求を断固として拒否する旨決定した。

オルギン外相は、コロンビアには法的理由から、ICJ判決が適用をされない旨及び、（ICJ判決の強制管轄権を認めた）ボゴタ条約（の合憲性について）の憲法裁判所の判断を待っている旨述べた。

#### 9 第20回太平洋同盟高級実務者会合（於：チリ）

27日、第20回太平洋同盟高級実務者会合がチリにおいて開催され、モラレス外務次官が出席、大使館及び領事館の一部共有に関する覚書に署名した。

（了）